



special feature

座談会  
公務員への道



econ. no.053

Hokkai-Gakuen University Faculty of Economics  
2026 冬・春号

# 特集

## 座談会 公務員への道

### 「安定」している?! “公務員になる、ということ

### ～卒業生が語るゼミでの学び、体験、社会で生きたこと～

安定した就職先というイメージの公務員ですが、近年は若い世代の離職率が高いと聞きます。今回は、地方公務員として活躍している卒業生をお招きし、なぜ公務員を指向したのか、また、実際に働いてから感じたギャップなどについて、公務員を目指している在學生に話してもらいました。

2025年12月11日(木)開催



司会  
大貝 健二  
地域経済学科教授

#### 公務員志望の動機

—みなさんは、なぜ公務員を志望したのですか？

**佐藤** 2年生の地域研修で十勝に行って、十勝管内の市町村か帯広市に勤めたいと単純に思いました。第一志望は帯広市で、十勝町村会（十勝町村職員採用試験）も受けていたんですけど、一次試験がうまくいかなかったんです。同時に受けていた北広島市が先に一次通過の結果が出て、北広島市のことを調べたり街なかを歩いてみたりするうちに「いいな」と思い始めました。最終的に清水町も受かったんですが、気持ちは北広島市に固まっていました。



佐藤 将貴さん  
地域経済学科 2016年卒  
北広島市役所

**細川** 社会教育主事を目指していたからです。1年生のとき、内田和浩先生の「地域社会論」で社会教育主事のことを知ったのをきっかけに、2年生から社会教育主事課程を受講しました。そして、由仁町に一般行政職で入りましたが、教育委員会には配属されなかった。今も社会教育主事の仕事はできていないという状況ではあります。



細川 翼さん  
地域経済学科 2014年卒  
由仁町役場

**山口** 僕は、高校生のときから公務員になろうと思っていました。働くなら「安定」が一番大きな軸になると考えたからです。民間企業も一応考えましたが、失業が怖くて、公務員は絶対に安定していると思いました。今3年生で、まだ国家か地方か決めていませんが、一応、国家公務員を目指しています。



山口 汐真さん  
地域経済学科 3年  
公務員志望

**奥木** きっかけは、父が公務員、母は民間企業で公務員と関わる仕事をしていて、身近な職業だったからです。親の影響もあり地域と関わる仕事がしたいとぼんやり思っていて、2年生のときにとりあえず公務員講座を受けているうちに、「公務員試験を受けてみよう」という気持ちになりました。あと、地域研修でいろいろな自治体を訪れて、インターンシップにも行き、自分の中で公務員のイメージが持てたことも大きいです。

#### 集中的に猛勉強！

—どのように試験勉強に取り組んで、今の自治体に入りましたか？

**佐藤** 最初、国家公務員の専門科目もすべて取っていたんですが、「自分にはムリだ」と悟りました。まず一次試験の筆記が通らないと、自分が経験したことすらアピールできないと考えて、公務員講座が始まる2年生の時点で地方公務員にグッと絞ることにしたんです。地方に必要なものだけ取って、実際に受けたのも地方ばかり。それに、自分は比布町出身なので、国という大きな規模より、小規模な地方自治体で働きたいという思いもありました。

**細川** 公務員試験の勉強は3年生の終わりからです。公務員講座も受講しなかった

ので独学でした。国家公務員は専門科目の試験があるので最初から志望しなかった。出身は江別市ですが、もうちょっと小規模なところで働きたいと思っていた中で、由仁町とご縁がありました。

**奥木** 僕も国家より地方公務員を目指していました。公務員講座は受けていましたが、猛勉強し出したのは3年後期の1月後半から。一応、国家も受けましたが、本命の札幌市に必要な科目しか勉強していませんでした。



奥木 亮成さん  
地域経済学科 4年  
札幌市役所入庁予定

—1日どれくらい勉強した？

**奥木** 猛勉強したときは1日7、8時間くらいです。

**佐藤** 僕もそのくらいだったと思います。毎日、図書館へ開館と同時に行って、夕方5、6時まで勉強していました。

**細川** 自分は深夜のアルバイトをしていて、1日2、3時間しか勉強していなかったんです。でも、5月の道庁の一次試験に落ちて「これはちょっとまずいかも」と思い始めた。9月に空知町村会の試験（空知総合振興局管内町職員採用資格試験）があったので、倍以上勉強してなんとか受かりました。

**山口** 僕はこれからですが、1日7、8時間は勉強しなきゃいけないんですね…。

**佐藤** ただ、今は試験がSPIなどに変わってきています。地方公務員だけで言えば、自治体がなにを取り入れているかきちんとリサーチして、それに合わせた勉強をすればいいと思いますよ。それに、我々のころより面接重視になってきているような気がします。





■キャリア支援センターに届く多くの公務員募集パンフレット



12月に行われた3年生向け公務員ガイダンス

## 公務員になって知った現実

——公務員になって、学生のときに思っていたことと実際とのギャップは？

**佐藤** 学生のころは、公務員は安定している、定時で上がれる、みたいなイメージがありました。でも！1年目から月の残業時間が60時間を超える月もたくさん経験することになりました。しかし、10年前の環境と比べると途中で「働き方改革」が始まり、原則月45時間以上の残業ができなくなりました。これに伴って各業務の見直しもあり、効率化が図られて残業時間もかなり減ってきています。細川さんはどう？

**細川** 同じような感じです。自分も実際の労働環境が分かっていなかった。最初は保健福祉課で残業もありました。障がい福祉という大学で学んでもいないことを担当しなければならなかったときは、心が折れかけました。次は財政に異動しましたが、他の部署の仕事はある程度知っていないと予算の話ができない。3年いてもわからないことが多くて、そこでも心が折れかけましたが、なんとか食らいつきました。

**佐藤** 僕も初めに福祉課への配属となり、障がい福祉を担当しました。膨大な量の事務仕事と格闘しながら、途切れのない窓口対応に追われる日々で、「こんなにもやる事があるのか…」と、まさに学生だった頃に考えていた働き方とのギャップに悩みました。大きな都市だと窓口業務と相談業務と事務作業とで担当が分かれていると聞いたことがあり、それぞれの業務に特化できる点を羨ましく思うこともありました。

**細川** 小規模の自治体は人員が少ない分、一人ひとりの業務量がどうしても多くなりますよね。そのかわり、1つの部署にいても幅広く仕事ができる。大都市だとある程度特化しているので、仕事の幅は狭くなるのかなという認識です。

——1つのことに特化したほうがいいのか、幅広くさまざまな経験をするほうがいいのか、

か、考えて選択したほうがいいのかもしいという事です。

**\* 2019年「働き方改革関連法」施行。原則、残業時間の上限は月45時間に規制された。**

## プラスアルファが、やりがいにつながる

——公務員として、やりがいを感じることは？

**佐藤** 今、子ども家庭課の担当になって、これまでにないやりがいを感じています。それまでは目の前の仕事を片付けるのに精一杯で、市民の幸福度を上げるための「プラスアルファ」の部分に手を付けられませんでした。でも今は子どもたちと地域につながる企画を実施できています。たとえば、JAとのコラボで道産米の食育イベントやエスコンフィールドでの遠足、職業体験など、地域資源を活用して子どもたちにさまざまな学びや体験の機会を生み出すという「プラスアルファ」の部分で、9年目にしてやっとできるようになりました。

**細川** 保健福祉課のときは、障がい者の方と対面する中で感謝されることもあって「この仕事っていいな」と思いました。財政担当のときは、小学生が作る町の広報誌（現在は廃止）を役場の有志で企画しました。もともと社会教育がやりたかったから、教育委員会に配属されなくても、役場の中でやりたいことを見つけてできることにやりがいを感じました。

——最後に、公務員の先輩から、そして在学生から一言。

**佐藤** 大学受験や高校受験と違って、公務員試験は筆記の勉強だけじゃ突破できない。アルバイトやゼミ活動などいろいろ経験して、自分らしさをみつけたうえで試験に臨んでほしいです。そして、公務員は「安定」と言われつつも、近年は退職する方も増えてきた印象を受けます。公務員という選択肢が自分が思い描くライフスタイルに合っているのかを考える時間も大切にしてほしいです。

**細川** 昔から公務員に対する風当たりは強いです。最近はより強くなっていると感じます。そんな中でも住民のためになにができるかを考えて仕事をすると、逆にいろいろ言われるからこそ公務員としてやりがいがある、よかったなと思うときが来る。自分は今、公務員で良かったと思っています。

**山口** 先輩たちの話は、説明会だけじゃわからないこともあり。この場じゃないと聞けない残業の話や、やりがいについても人事の方とは違う視点で聞いたのがよかったです。

**奥木** 春から公務員になる身として、やっぱり最初は大変なんだな、と改めて思いました。ゼミの経験やアルバイトの経験が生かせること確認できたのもよかった。公務員になってからも、頑張っって自分の力を上げていきたいです。



私のゼミでは、学生アルバイトの実態や学生のワークルールの認知（職場でのワークルールの遵守）状況に関する調査・研究活動を毎年行っています。今年度の調査結果の中間報告を、10月22日の私の授業（労働経済論）を使って学生たちに行ってもらいました。ゲストには、皆川洋美弁護士（きたあかり法律事務所）をお招きしました。皆川さんは、今回のテーマとの関係では、過労死弁護団、ブラック企業被害対策弁護団に所属をして活躍されている弁護士です。

さて、アルバイト先で問題に遭遇していても、ワークルールを知らなければ、そもそも問題だと気づかないこともあります。例えば、(1) 賃金が全く支払われないとすれば、これは問題だとさすがに気づくでしょうけれども、残業代は1分単位でカウント／支給される必要があることや、制服への着替えなど仕事をする上で不可欠の作業にも賃金が本来支給されるべきことは、十分に知られていません。(2) 有給休暇制度についても、学生であっても取得ができることは徐々に知られてきているようです。ところが、では、自分のアルバイト先で有給が取得できるかは、「分からない」という回答が多いです。一般的知識はあっても、我がことに引き寄せて考え、実践したことがないのです。(3) あるいは、客が少ないからと早上がりさせられたり、予定していたシフトが急に取り消されたりしたときに学生たちは、当然のことながら不満を感じるわけですが、休業手当の支給というかたちで一定の賃金保障がなされるべきことについては、多くが知りません。

以上のような状況は、遭遇する問題の程度に差はあれども、労働

相談で皆川弁護士のもとを訪れる労働者と似たところがあります。いわば相談者は、学生たちにとって将来の自分たちの姿でもあると言えるでしょう。職場で遭遇する問題にどんな姿勢が必要か、ワークルールを学ぶ意義とは、といったことを、実際の労働相談事例を交えながら、皆川さんと一緒に考えた90分でした。（川村雅則）



写真：川村ゼミの発表が行われた労働経済論。写真左はゲストの皆川洋美弁護士。右はゼミ生とのディスカッション

## 036 卒業生訪問

### 地域研修で農業の課題について学び、その解決に取り組む仕事を選択

#### ●時間を有効活用し、野球と勉強を両立

北海学園大学を受験したのは、地元の農協に勤めていた父の影響もあって農業経済学を勉強したいと思ったことと、高校時代から熱中していた野球を大学でも続けたかったからです。高校で全道大会に出場しましたが、甲子園には届かず悔しい思いをしたので、大学でももう少し続けたいと思いました。

そのため午前は準硬式野球部の活動に、午後から勉強に集中できる2部（夜間部）を選びました。平日は朝8時に集合して午前中は練習に打ち込み、午後は講義の予習やアルバイト、18時か



2020年宮入ゼミ

ホクレン農業協同組合連合会 苫小牧支所 米麦農産課

### 真嶋 隆朗さん

ましま たかあき

ら21時まで講義を受ける充実した生活を送りました。

勉強で力を入れたのは、宮入ゼミでの活動で

す。北海道農業の現状を学び、2年3年と続けて地域研修で現地に赴き、農業に関する知見を深めることができました。文献から得る知識はもちろん重要ですが、いろいろな人の話を聞かなかで理解することも多く、そうした成果をゼミナール論文にまとめ、「江川賞」をいただくこともできて大変うれしく思います。



準硬式野球部の同期生



2020年江川賞の授賞式

2023年度に在外研修で1年間滞在させてもらったウィーンは、自然が札幌とよく似ている。郊外の住宅地で、北広島に戻ったのかと一瞬ギクリとしたことがあったし、「ベートーヴェンの散歩道」で知られるハイリゲンシュタットを本学の学生と散歩していた時は、その学生も「北海道にそっくりですね!」と呟いた。やはり誰が見ても似ているのである。

そのウィーンと札幌だが、まったく違うものがある。それはズバリ、建物である。あちらの建物は、基本的に古くて大きい。そもそもウィーンは、古代ローマ時代にはすでにローマ軍の駐屯地であり、中世以降は神聖ローマ帝国皇帝の御座所となるなど、2000年以上の歴史を誇っている。バロックの名建築として知られるカール教会があるかと思えば、その真横にアール・ヌーヴォーの代表作として有名なオットー・ワーグナー設計の地下鉄駅舎がある。意匠が優れているだけでなく、ゆったりとした造りで、手入れもだいたい行き届いている。そんな生きた建築博物館のような街で暮らしが営



写真：ウィーン郊外の普通の住宅地

まれるとなると、概して豊かになりやすい。豊かさにもいろいろな基準があり、単にお金という切り口だけでは済まないのは確かであろう。とはいえ、お金がかかるという観点では、現在の物価高の日本よりもっと高い

で、「豊か」と言い切れる。しかしそれよりも、日常を楽しもうとする気概が、精神的な豊かさが、街中に溢れている。公園の広場から家々のベランダに至るまで、コーヒーを飲んだり、友人たちと語り合ったり、軽く汗を流したり、街を舞台にみんなが自由に生きていることがよく伝わってきた。

そんな生き方は札幌ではまだ過分な要求とみなされているかもしれない。しかし、あちらでは日々を生き抜く力として機能しているのだから、ここでも実現できないはずはないであろう。学生諸君には、あの贅沢を現実のものとして楽しんできてもらいたい。ド

ナウ河の岸辺にもハマナスは咲いていたのだから、豊平川だってきっといい線行けるはずである。札幌は、東京の人が悔しがらうくらい贅沢な日常生活が送れる街になる潜在力がある。ドイツ語のクラスは、その旅の入り口として君たちを待っている。学生時代にやるべきことリストに、ドイツ語学習とウィーン見学をぜひ加え給え。



写真：ウィーン中心部ドナウ運河のほとり\_休日の風景

### ●じゃがいもについて学びたい!

就職活動は3年生から始め、主に農業系の企業や団体の説明会に行きました。自分が一番興味を持っていることは何か考え、もともと食べることが好きで、特にじゃがいもが大好きだったことから、「じゃがいもについて詳しく学びたい」と思い、それならどこが一番詳しいのかを調べていくと、現在所属しているホクレンに行き着きました。

また、宮入ゼミで農業の労働力不足や生産面積の減少など多くの課題に触れ、北海道の農業について総合的に力を発揮できるホクレンに魅力を感じ、自分も何か役立つことができればと思いました。

3年生の夏にインターンシップに参加し、その後の説明会にも何度も足を運び、自分の熱意を伝えるよう心がけました。そうした努力が実ったのか、当時ホクレンの就職率は約8倍だったと聞きましたが、難関を乗り越えることができました。

就職活動では、どこに自分の軸を置いたらいいか迷う時があると思います。もし迷ったら、仕事をする自分の姿をイメージしてみて、人に感謝される仕事って何だろう?、人のために何ができるだろう?、という観点で考えてみるといいと思います。

### ●常に熱意を持って仕事に向き合う

現在は胆振・日高地域の野菜や果物の集荷、流通販売業務を担当しています。地域のJAの皆さんと協力しながら、カボチャやトマト、じゃがいもなど、地域の様々な品目を集荷し、道内外の市場に供給する仕事です。北海道の農産物は全国に流通しているため、関西や中国、四国、九州などへ出張することも多くあります。

いつも心がけているのは、北海道農業の維持・発展のために、ま



写真：真嶋さんが現地で学んだ 2018、2019年の地域研修



た生産者のために、自分に何ができるか?、どうやったら北海道農産物のファンを増やせるか?を考え、全国の取引先の方々と接すること。まだ達成できていないことばかりですが、常に熱意を持って仕事に向き合い、就職前に考えていたじゃがいもだけでなく、野菜全般に詳しくなることが今の目標です。

改めて大学時代をふりかえると、地域経済学科で「その地域の課題は何か」を身近に学んだことがすごく良かったと感じています。「課題解決のために何ができるか」を提案することが今の仕事ですから。これからも地域の役に立てるように頑張ります。



●1998年剣淵町生まれ、北海道士別翔雲高等学校出身。2021年3月、本学経済学部地域経済学科を卒業(農業経済学宮入ゼミ、準硬式野球部所属)。同年4月にホクレン農業協同組合連合会に入会、岩見沢支所を経て2024年6月から苫小牧支所に勤務。

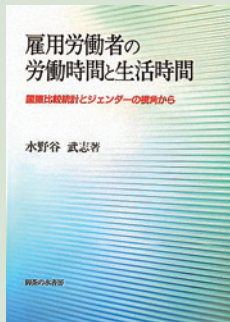


## 水野谷武志 地域経済学科 教授

みずのや たけし

### <略歴>

神奈川県横浜市出身  
法政大学大学院社会科学研究科経済学専攻博士課程修了  
北海学園大学経済学部講師を経て現在に至る。  
専門は経済統計。主な著書に、「雇用労働者の労働時間と生活時間：国際比較統計とジェンダーの視角から」御茶の水書房、2005年がある。



## 人との巡り合いと研究者人生

### ● はじめに

学生からよく尋ねられる質問の1つに「どうやって研究者になったんですか？」があります。大学教員だけが研究者ではありませんし、研究者になることができた理由は単純ではありませんが、私の回答は「人との巡り合い」です。もちろん、大学教員になるには一定の学歴や研究成果が必要なのですが、それらも元を辿ると「人との巡り合い」の影響が大きいのです。そこで、研究者の成り立ちの一例として、私が巡り会った主要人物を紹介いたします。

### ● 伊藤清春先生

高校のサッカー部の恩師です。サッカーに熱を上げていた当時の私は全国大会の出場経験のある県立高校に、学区外でしたが受験して入学しました。先生は文武両道を重んじていたので、口癖は「学業の振るわない生徒はサッカーでも成長できない」でした。私のサッカー成績は振るわなかったのですが、「文武両道」の教えのおかげで学内の学業成績が良かった私は指定校推薦で法政大学経済学部へ進学しました。



### ● Jim & Joyce Frost

大学で経済学が目覚めるということではなく、むしろサークルやアルバイトを楽しんで、あっという間に就活を迎えました。バブル経済の余韻が残る売り手市場の時期だったのですが、そのような就活にモヤモヤし、4年生を休学して、米国に語学留学しました。そのホームステイ先でお世話になったのがJim & Joyce夫妻でした。ホームステイには当たり外れがある中で、本当に良い家族に出会い、支えてもらったお陰で、苦手だった英語もやれば出来ることを体験しました。あれから30年以上経ちますが、夫妻とは今でもSNSでつながっています。



## NEWS 2

## 2025年 地域研修報告会開催

2025年12月8/10/12/20日

2025年度の地域研修報告会は、12月8(月)、10日(水)、12日(金)、20日(土)の4日間の日程で開催されました。同報告会は経済学部の「地域研修Ⅰ・Ⅱ」の一環として毎年実施するもので、今年度は28グループがパワーポイントを使いながら研修の成果を披露してくれました。フロアの学生から報告に対して鋭い質問が投げかけられ、熱を帯びた議論が交わされていました。

今年度も充実した地域研修を行うことができたようです。学生は道内外に足を運び、実際に見て、聞いて、触れて、地域の社会・経済・文化の多様な姿かたちと、それぞれに個性豊かな地域づくりの実践について見聞を広げました。

道内の研修先は、札幌市、旭川市、小樽市、函館市、帯広市などの主要都市、そして数多くの農山漁村というように多岐にわたります。

また、福島県、栃木県、福岡県など、道外に飛び出し、学びを深めたゼミナールもみられました。

地域研修の実施方法は年々工夫が重ねられています。例えば、地元の方々と一緒に活動しながら地域調査に取り組む「参加型」が根付きつつあります。地域研修報告会は、個々の地域の実情を知る場としてだけでなく、こうした地域調査の在り方を巡る新たな知見やノウハウを共有する場にもなっているようです。また、いくつかのゼミでは、調査受入でお世話になった地域の方々へ対面やオンライン形式で研修報告会が行われています。学生からみた地域課題や提言を発表し意見交換することで、学生の学びを深めるとともに、研修の成果を地域に還元しています。

今回の地域研修報告会を通して得た知見は、次年度の地域研修のバージョンアップにつながるに違いありません。と同時に、地域研修の集大成として、一人でも多くの学生が卒業研究に踏み出すことを願っています。(上園)





伊藤陽一先生と



伊藤セツ先生と



Kimberly Fisherと

### ● 伊藤陽一先生

大学院時代の指導教員であり、研究者になることができた最も直接的な理由は先生の惜しみない指導のお陰でした。とは言うものの、巡り会い方は立派とは言えず、学部1年生のゼミのクラス担任がたまたま伊藤先生で、先生とは波長が合うところが勝手に思って、統計学を専門とする先生のゼミを2年生以降も履修したのが経済統計に興味を持つきっかけとなり、語学留学後に経済統計分野での大学院進学の道を相談して受け入れていただいたのでした。

### ● 伊藤セツ先生

大学院に進学し、研究テーマを日本の長時間労働問題の統計的研究としたときに、就業時間だけ考察してはダメで、人間生活全体の時間＝「生活時間」もみる必要があるというアドバイスを受け、当時、家政学分野で生活時間調査・研究を精力的に展開していた伊藤セツ先生（伊藤陽一先生のパートナー）の共同研究グループに参加させていただきました。お陰で、生活時間調査・研究の世界に入るきっかけを得たの

と同時に、家政学分野の研究者と交流する機会も得ました。交流は30年経った今も続いています。

### ● 藤原真砂先生

国際生活時間学会（IATUR）という生活時間調査・研究に関心をもつ者が世界中から集まる組織が毎年、国際会議を開催しているのですが、そこで藤原先生と初めてお会いしたのが1998年で、それ以来の交流があります。この国際会議を日本で開催して、日本での研究を盛り上げたいという先生の熱意に共感し、2012年に松江市、2023年に東京で国際会議の開催に携わりました。お陰で、2024年には「日本生活時間研究会」を藤原先生と新たに立ち上げて、国内研究者との交流を続けています。



藤原真砂先生と

### ● Kimberly Fisher

本学の教員研修制度を使って2013年9月から1年間、生活時間研究所の客員研究員として英国に滞在したのですが、その時の私の「身元引受人」が同研究所専任研究員のKimberlyでした。彼女はIATUR事務局長だったので良く知っていました。私の急な依頼にもかかわらず客員研究員の受け入れを彼女に快諾していただき、滞在中は私の研究サポートのみならず家族共々、大変お世話になった人物です。結果論ですが、彼女の快諾の背景には、松江での国際会議の運営を担当した私への恩義があったことは間違いありません。

### ● 最後に

私の場合は、研究者になること、そして大学教員になった後に研究者として成長していく上で、上記の人との巡り会いが不可欠でした。これは振り返ってみて改めて感じることなので、皆さんには、未来の自分のために、そのときどきの人との巡り会いを大事にしてほしい、というメッセージを送りたいと思います。

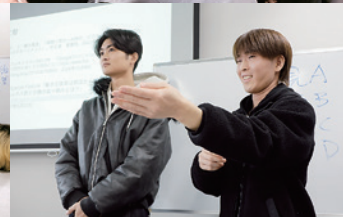
## NEWS 3

## 2025年 基礎ゼミ・プレゼン発表会

2025年 12月16日

12月16日、1部火曜2限に行う複数の基礎ゼミナールによるプレゼンテーション大会が開催されました。約4名で構成された20グループが発表を行いました。タイム・パフォーマンスと消費行動、貧困問題や貿易の多角化などの経済・社会問題、AIをはじめとするIT分野、アニメなどのソフトパワー産業など、多様なテーマが扱われました。各基礎ゼミ・各グループで、情報収集やスライド作成、発表練習を重ね、大会当日はその成果を十分に発揮していたと思います。プレゼン大会を通して、学生同士が互いの発表から刺激を受け、課題発見力や表現力を高める貴重な学びの機会になったと思います。

前期からの基礎ゼミで培ったアカデミックスキルを、今後の学修や卒業研究、さらには卒業後の社会活動に積極的に活かしていくことを期待したいと思います。（比嘉）





## NEWS 4 教職課程へようこそー着実な学びの成果を教育現場へ、そして社会へー

本学は5つの学部すべてに、学科に応じた教職課程が設けられています。なかでも経済学部・教職課程は本学で最も早く設置された由緒ある課程です（1954年設置）。この伝統のもと、大学全体で約1,500人以上の卒業生を学校現場に送り出してきました。とりわけ、草創期から教員養成に携わってきた経済学部は、校長・教頭などの管理職として活躍する先輩も数多くいます。

経済学部の教職課程履修生は、1部で55名前後、2部で40名程度となっています（全学年）。学部全体に占める人数は少ないですが、そのぶん学生一人ひとりの学修状況や進路志望に応じたきめ細かな指導が行われています。また、学部の卒業単位に加えて、教職の単位を追加して取る必要があることから、教職科目については1部・2部いずれの開講時間帯でも履修可能となっています。

かつては、高校社会科で全道100人以上が受験して採用者1名といった狭き門の時代もありましたが、近年の採用率は大きく改善しています。2024年度に経済学部1部で7名中4名が現役合格、翌年も2名全員が現役合格し



ました。2部でも2025年度に1名が受験し現役合格しています。卒業時に正規採用とならなかった場合でも、ほとんどの者が1～2年程度の臨時教員勤務のあと、正規職として活躍しています。また、民間企業など別の職業に就いてから、数年のちに教員に転じるというケースも少なくありません。高い志をもつ学生が学修を重ね、教員への道を確実に達成していることを示しています。

教職課程での学びは、教員になることだけの意味にとどまるものではありません。教員免許は、専門知識に加えて、計画性・責任感・臨機応変な対応力といった能力を身につけた証として、社会的にも一定の評価を受ける資格です。企業や行政など、他の分野に進んだ卒業生にとっても、教職課程での学びはキャリア形成において大きな強みとなっています。（荻原）



北海学園大学同窓生の教員で作る豊陽会「後輩応援プロジェクト」講演会（写真左も）2024年10月

## NEWS 5 就職活動・公務員か民間企業か

### 二つのスケジュール

あなたは公務員志望でしょうか、それとも民間企業への就職を目指しているのでしょうか。大学入学前から決めている人もいるかもしれませんが、最近なんとなく考え始めた人、今の時点ではどちらか一方に決められないという人もいるかもしれません。ここでは、皆さんのキャリアサポートの一環として、公務員を目指す場合と民間企業就職を目指す場合に分けて、本学の一般的なスケジュールをご紹介します。

#### 【民間企業への就職を目指す場合】

2年生が終わる3月	学内就職ガイダンスに参加
3年生 春	自己分析や業界研究を開始。インターシップの情報収集
3年生 夏	インターシップに参加し、実際の業務を体験
3年生 秋以降	エントリーシート提出や面接準備。会社説明会に参加
3年生が終わる3月	エントリーシート提出本格化。採用選考スタート

民間企業を目指す場合、インターシップや説明会に参加し、企業理解を深めることが重要です。また、自己分析を通じて自分の強みや興味を明確にし、自分がマッチする業界・職種を見極めることも重要です。



2025年11月22日の3年生業界研究会

#### 【公務員を目指す場合】

2年生 秋	2年生対象の公務員ガイダンスに参加。公務員試験の内容を理解し、試験科目の勉強をスタートさせる
3年生 4月	本格的な試験対策を開始。学内で受講可能な公務員講座に参加（有料）
3年生 夏	集中的に試験勉強に励む
3年生 冬	各種公務員模擬試験の受験
4年生 春以降	一次試験、二次試験、面接に進む。面接・小論文対策、ガイダンス、模擬面接をキャリア支援センターが実施

公務員試験は範囲が広いため、計画的にコツコツ勉強を進めることが重要です。また、自己PRや志望動機をしっかりと練る必要もあります。

二つのスケジュールは大きく異なりますが、どちらの場合でも後悔せぬよう早め早めに考えて動いてください。（歌代）



2026年11月の3年生公務員ガイダンス

